

- 荒茶価格の低迷や生産資材高騰により経営が厳しくなっている中、茶生産の全般的な指導・支援ではなく、**生産者の茶園ごとに応じた生産性改善**を戦略的・計画的に指導・支援することで経営改善を図る必要があった。
- 茶園ごとの生産性を『見える化』できる**茶園生産性分析ソフトを作成**し、生産性の問題点を明確化して、生産性改善策を提案・支援した。
- 分析ソフト活用により**生産者自らが**茶園の生産性を見直し、目標を設定するなど、**経営改善意欲の向上**が見られ、**生産性改善策の実施**に繋がった。

具体的な成果

1 茶園生産性分析ソフトの作成

■圃場ごとの生産性をグラフ化し、**圃場の特徴・課題が目で見えてわかる『茶園生産性分析ソフト』**(以下『分析ソフト』)を作成した。

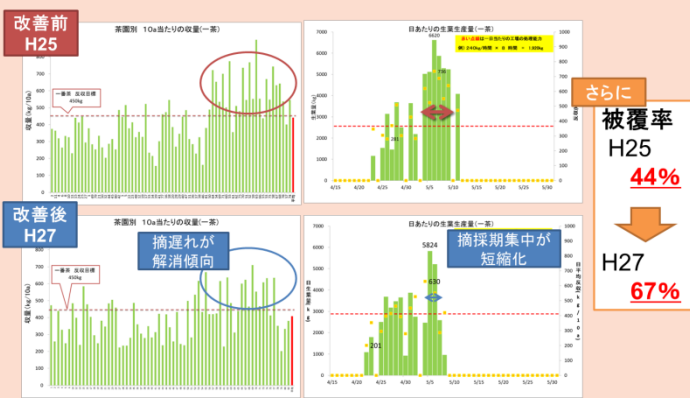


2 生産者の経営改善意欲が向上

■分析ソフトの活用により、**生産者が**各茶園の生産性を確認し、「**改善対策の検討**」、「**目標の設定**」について具体的な対策技術や数値を検討するようになった。

3 改善対策の実施による生産性の向上

■生産者の生産性課題に適した改善策の実践に繋がり、労働負担軽減と荒茶品質等の**生産性の向上**が図られた。



普及員の活動

1 分析ソフトの作成及び

分析ソフトを活用した経営改善指導
平成25年

■圃場ごとの生産性を『見える化』できる**分析ソフト、及び、使用手順を作成**した。

平成25～27年

■重点農家5戸に分析ソフトから把握された生産性課題に対して**経営改善策の提案・検討**を行った。

■適宜、経営改善策への取り組み状況について確認・指導を行い、経営改善策の実施に向けて支援を行った。



2 分析ソフトを活用した

茶経営改善手法の普及・推進

平成25～27年

■研修会等で茶生産者に分析ソフトの活用による経営改善について紹介し、分析ソフト活用の普及・推進を図った(累計18回)。

普及指導員だからできたこと

- ・専門技術・知識を活かして分析ソフトを作成し、**効果的・具体的な目標値を示す**ことで農家の経営改善意欲を向上させた。
- ・分析ソフト活用の有効性・実用性を関係機関と共有し、分析ソフトの普及・推進を連携して取り組を進められた。

茶園生産性分析に基づいた茶経営改善

活動期間：平成25～27年度

1. 取組の背景

市場価格の低迷や資材の高騰により茶業経営が非常に厳しい状況にある中、農家の収益性を確保し産地を維持していくためには、個々の農家に応じた栽培改善を実施し、戦略的・計画的な経営改善に取り組むことが必要だった。そこで、的確な栽培改善を図るために、まず圃場ごとの生産性を『見える化』する茶園生産性管理ソフトを作成し、農家自身が課題を把握して整理し、改善目標を立てた上で改善の指導・支援に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

(1) 茶園生産性分析ソフト作成および茶農家の生産性課題の把握

1) 茶生産性分析ソフトの作成

- ・圃場ごとの反収や販売単価をグラフ化し、圃場の特徴や問題が見てわかる『茶生産性分析ソフト』(以下『分析ソフト』)とその使用手順を作成した。

2) 茶園生産性調査・分析(経営体数)

- ・対象生産者から茶生産が終了した9～12月までに本年度の生産データを回収し、2月までに対象生産者の分析を行った。

3) 課題整理と課題に応じた技術指導・情報提供

- ・対象生産者について一茶生育検見を実施し、過去2カ年分の生産性データを基に摘採計画や施肥計画について技術指導を行った。
- ・茶摘採期に適宜、改善策の取り組み状況についての確認・指導、および、生産状況や市場の販売状況について情報収集及び情報提供を行った。

(2) 茶園生産性分析を活用した目標設定および茶経営改善手法の普及・推進

1) 生産性シミュレーション作成による目標設定

- ・対象生産者に分析ソフトの結果をもとに短期的目標(被覆率向上や栽培作業改善等)や、長期的目標(園地整理や優良品種への改植等)の検討を行った。

2) 生産性分析に基づいた茶経営改善手法の普及・推進

- ・担当者会議(JA、西九州茶連、茶業試験場、嬉野市)
本課題の進捗状況について情報共有を図り、対象生産者への指導・情報提供の指導協力体制を確認した。
- ・分析ソフト説明・勉強会及び成果報告会(対象：茶生産者及び茶技術者)
地域の栽培研修会および県茶生産者大会で茶生産者に向けて分析ソフトの活用による経営改善について説明会を行った。

3. 具体的な成果（詳細）

(1) 茶園生産性分析ソフト作成および茶農家の生産性課題の把握

- ・対象生産者(1 戸)は自力で分析ソフトを活用できたが、パソコン操作に慣れていない多くの生産者には難しかった。そのため、茶関係技術者に分析ソフトの説明会を開催し、分析ソフト入力を指導できる人材の育成を図った。
- ・関係機関(JA、市、茶試)と各生産者の販売単価、生産量などを数値で情報共有し、生産者の課題に沿った指導計画をたてることができるようになった。

(2) 茶園生産性分析を活用した目標設定および茶経営改善手法の普及・推進

- ・対象生産者と分析ソフトを活用して経営目標設定を行ったことで、生産性が悪い圃場や生産者自身の生産課題の見える化と把握ができた。
- ・対象生産者(5 戸)において生育検見、芽出し肥の追施、被覆率の向上等の短期的な改善策や防霜ファンの設置や園地整理、品種構成の見直しといった長期的な改善策の実践につながった。
- ・課題に取り組んだ3年間で経営全体に明確な改善効果を示すことは難しかったが、圃場ごとのデータにおいて収益性の増加が見られた圃場があった。



図 分析ソフトにおけるグラフ



写真 分析ソフトを活用した指導

4. 農家等からの評価・コメント（重点支援農家、JA 営農指導員）

- ・分析ソフトを活用した重点農家から『自分たちのデータから出た目標値だからやりがいがある』や『入力作業は面倒だが厳しい情勢の中だからこそ、分析ソフトを活用した経営改善が生きてくる』等の感想・意見が聞かれた。
- ・JA 営農指導員からは『指導内容に根拠が生まれ、指導内容に厚みがでた』や『生産者の経験則に基づく技術の検証が可能になった』等の声が聞かれた。

5. 普及指導員のコメント（藤津農業改良普及センター・副主査）

- ・今まではどの農家にも経営改善のためには土づくり、被覆率の向上、老木園の改植、製茶技術の向上と画一的に指導を行っていたが、今回の取り組みによって生産者の生産状況を数値で把握ができ、生産者に応じた効果的な経営改善指導ができるようになった。
- ・今後も活用事例を増やしていき、管内全体にこのソフトの活用による経営改善が広がっていくように、今後も関係機関と協力していきたい。

6. 現状・今後の展開等

- ・茶市場価格の急激な情勢回復が見込めない中で、茶のみの経営改善では所得の向上は難しいため、複合経営を推進し経営の安定を図る必要がある。